

『本を読む本』

三年五組担任 中山 義康 先生

本を読むための心得を教授する本。速読などの「読むための」技術ではなく、著者の意図や内容の主題を「理解・利用するため」の技術を提示している。進学する人は、レポートや研究のために文献を当てることが増えるであろうし、そうでない人も嗜みとして読書をする際の技術として大いに参考になるだろう。

他にも薦めたい本は多数あるが、まず読書を身に付けるために一つの足掛かりにして欲しいとの思いから推薦する。

J・モーティマー・アドラー他著

講談社学術文庫

『FACTFULNESS』

フアクトフルネス 10の思い

込みを乗り越え、データを基に

世界を正しく見る習慣』

三年六組担任 大江 隆介 先生

世の中の事を正しく見えていますか？ 昨今、正しいものからフェイクニュースまであらゆる情報が

飛び交い、時には数字のマジックに騙されるケースもあります。この本を読むと、物事を正しく判断できるようになります。時には情報を批判的に捉えたり、自分の知っている情報をアップデートしたりすることも必要です。

英語の問題で良くある fact なのか opinion なのかの判断もしながら情報を正しくキャッチできるようなれると良いですね。

(ハンス・ロスリング著 日経 BP)

『「壁」を越えていく力』

三年七組担任 阪野 晃平 先生

ノンフィクションライター藤井

誠二が、11人の人物に綿密な取材を重ねて書き上げたルポルタージュです。「いい学校・いい会社・いい人生」という言葉が空虚なものだと気づき始めた現在、「お礼口さん」に生きることを選ばなかった人たちの人生を通して本当の幸せな人生とは何なのか考えさせられます。卒業生諸君には是非読んでもらいたい本として推薦いたします。(追記 藤井誠二さん

現在愛知淑徳大学で教鞭をとってまいりますよ。(藤井誠二著 講談社)

『国境のない生き方』

―私をつくった本と旅―

三年二組担任

榎原 麻起子 先生

『テルマエ・ロマエ』の作者、ヤマザキマリさんのユニークな人生論にとっても驚かされます。彼女が様々な問題を経験しながらたくましく生きてこられたのは、本、旅、人との出会いがあったからでした。旅をするのは時間的にも金銭的にも限界があるかもしれませんが、本を読めば、いろいろな場所に「行く」こともできるし、たくさんの人にも「出会う」こともできます。時空を超えることだってできちゃうんです。地球サイズで見れば自分の悩みなんて、本当にちっぽけなものだと気づくことができる本です。

(ヤマザキマリ著 小学館新書)

『ニュースの“なぜ？”は世界史に学べ』

―日本人が知らない100の疑問―

三年三組担任

竹内 清博 先生

国際ニュースを見て疑問に思うであろうことを世界史とからめて解説。世界史を学習してきた君は、なんとなくそうだったのかと納得することばかり。例えばロシアのウクライナ侵攻に関連しては、二〇一四年クリミア半島編入をめぐって記した記述が答えてくれる。

『西欧文明とロシア文明の境界』

がウクライナと考えれば、東西冷戦が復活したのか、既に第三次大戦が開戦してしまったのか、米中対立に挟まれた日本の国際関係はどうなるのか、疑問や心配は尽きない。歴史から学ぶことは実に多い。

未来を創り出していく君たちこそ過去に目を閉ざすことなく、世界の現在に国際ニュースから学ぼう。(茂木誠著 岩新書)

『占術殺人事件』

三年四組担任

常法 順一 先生

ほとんど本を読まなかったので、推理小説なら読めるかなと思ひ、